

製品名: サイトケラチン 18 (リン酸化 Ser33) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04530**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	47kDa

抗原情報

遺伝子名	KRT18
別名	KRT18; CYK18; PIG46; Keratin; type I cytoskeletal 18; Cell proliferation-inducing gene 46 protein; Cytokeratin-18; CK-18; Keratin-18; K18
遺伝子 ID	3875.0
SwissProt ID	P05783
免疫原	抗血清は、ヒトケラチン 18 の Ser33 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

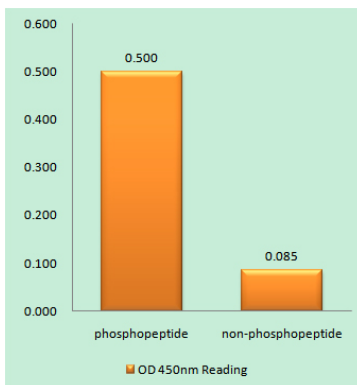
背景

KRT18 は、I 型中間径フィラメント鎖ケラチン 18 をコードします。ケラチン 18 は、そのフィラメントパートナーであるケラチン 8 とともに、中間径フィラメント遺伝子ファミリーの中で最も一般的に見られるメンバーです。これらは、体内の単層上皮組織で発現します。この遺伝子の変異は、特発性肝硬変と関連付けられています。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする 2 つの転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],疾患: KRT18 の欠陥は、特発性肝硬変の原因です[MIM:215600]。機能: 肝細胞によるトロンビン-アンチトロンビン複合体の取り込みに関与します (類似性による)。リン酸化されると、フィラメントの再構成に関与します。変異 CFTR の細胞膜への送達に関与します。KRT8 とともに、インターロイキン-6 (IL-6) を介したバリア保護に関与しています。誘導: IL-6 によって誘導されます。その他: 細胞骨格ケラチンとミクロフィブリルケラチンには、I (酸性、40~55 kDa) と II (中性~塩基性、56~70 kDa) の 2 種類があります。PTM: 複数の部位で O-グリコシル化されており、グリカンは単一の N-アセチルグルコサミン残基で構成されています。PTM: 有糸分裂中に Ser-34 のリン酸化が増加。病的な肝硬変肝では Ser-53 が過剰リン酸化されます。リン酸化は IL-6 によって増加します。PTM: 上皮細胞のアポトーシス中にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断されます。切断はカスパーゼ 3、カスパーゼ 6、またはカスパーゼ 7 のいずれかによって Asp-238 で起こる。類似性: 中間径フィラメントファミリーに属する。サブユニット: 2 つの I 型ケラチンと 2 つの II 型ケラチンからなるヘテロ四量体。ケラチン 18 はケラチン 8 と会合する。トロンビン-アンチトロンビン複合体と相互作用する (類似性による)。PNN、HCV コアタンパク質、および変異 CFTR と相互作用する。リン酸化されている場合のみ、YWHAЕ、YWHAH、および YWHAZ と相互作用する。DNAJB6、TCHP、および TRADD と相互作用する。組織特異性: 結腸、胎盤、肝臓で発現し、子宮頸管ではごく弱く発現する。乳癌のリンパ節で発現増加が観察される。、

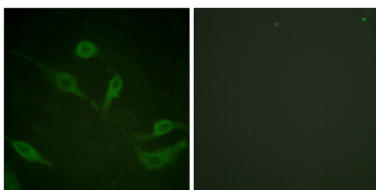
研究分野

病原性大腸菌感染症

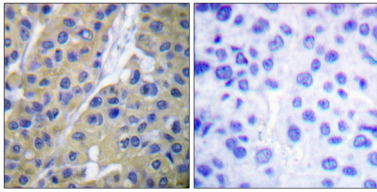
画像データ



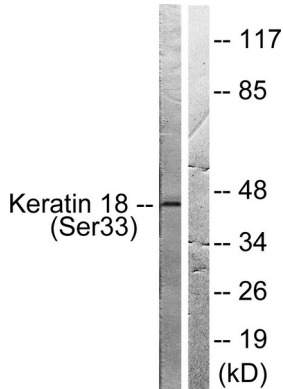
ケラチン 18 (リン酸化 Ser33) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



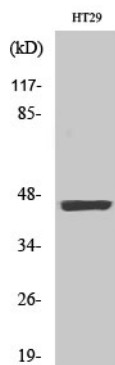
ケラチン 18 (リン酸化 Ser33) 抗体を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



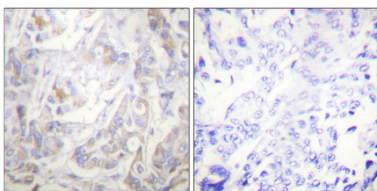
ケラチン 18 (リン酸化 Ser33) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



HT29 細胞ライセートのケラチン 18 (リン酸化 Ser33) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化サイトケラチン 18 (S33) ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して、様々な細胞のウェスタンブロット解析を行った。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。